

知っていることの大切さ

新型コロナウイルス問題で影響を受けておられない方は皆無だろう。感染症問題はこれまでも人類が直面してきた重大課題であるのに、忘れっぽい私たちは、賢い新型ウイルスにあたふたとして、今のところやられっぱなしというところだ。

今はあれこれの批判より、皆がこぞって真剣に対応するほかない時だが、そうは言っても根拠の乏しいことを平然と言ったり、邪念が見え隠れする為政者にはうんざりさせられる。他方で、この間の台湾の対策を指揮した専門家・行政の手腕や、世界中の多くのウイルス研究者の真剣さ、また、医療従事者の献身さなどにはうならされる。

一体いい大人がどうしてかくも違うのだろう。その理由として、よく勉強しているかどうか、また、自らが邪念をもって対応していないかを自省する気持ちを持っているかどうかがあげられるだろう。それはおのずと我が身にも問いかけることだ。

そんな問いかけを迫る事象はほかにもある。その最たるものが AI である。我々が知らないうちにこんな時代になってしまったと後悔をしないように、無知な大人が我々に大切なことを教えてくれなかったと今は子どもの皆さんに言われぬように、私たちは心して勉強し、少しは賢い大人である責任があるように思う。

おやじ日本は、そんな視点で AI 問題を引き続き取り上げていくつもりだ。多くの方々のご支援ご協力をお願いしたい。



認定NPO 法人おやじ日本
理事長 竹花 豊

令和2年度総会

令和2年度総会は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、定款第24条及び第29条に基づき書面表決により実施致しました。

実施日 6月9日(火) 午前11時30分～正午

場所 おやじ日本事務所

表決者総数 72名(出席者含)

定款第27条により、正会員総数(103名)の2分の1以上であるので成立する。

議長 竹花 豊理事長

議事録署名人 二村好彦副理事長 小山洋子常務理事

審議事項

第1号議案 平成31年・令和元年度事業報告について 承認 (賛成72 反対0)

第2号議案 平成31年・令和元年度決算報告について 承認 (賛成72 反対0)

なお、長坂敏史監事、岩崎智彌監事より、事業及び決算について適正に実施・処理されている旨の監査報告書が提出されました。

報告事項 (1)令和2年度事業計画について (2)令和2年度予算について (3)事務局職員について



第19回全国大会 「AIは人間を幸せにするのか？ 子どもたちと考える！」

【日 時】 令和3年1月16日(土) 開場 午後12時45分 開会 午後1時30分～午後4時

【会 場】 渋谷区商工会館 2階 大研修室 渋谷1-12-5 渋谷駅 B3 出口 徒歩3分

♪オープニングアトラクション 中・高校生によるヴァイオリン演奏(東日本大震災支援プロジェクト)

第1部 基調講演「AIの“今”と“これから”」 講師 西垣 通氏(東京大学名誉教授)

第2部 パネルディスカッション

出演者 西垣 通氏(東京大学名誉教授) 長谷川 眞理子氏(総合研究大学院大学学長)

パクンマクン(タレント)

工藤 勇一氏(横浜創英中学・高等学校長)

長谷部 健氏(渋谷区長)

竹花 豊(おやじ日本理事長 元東京都副知事) 中学生・高校生

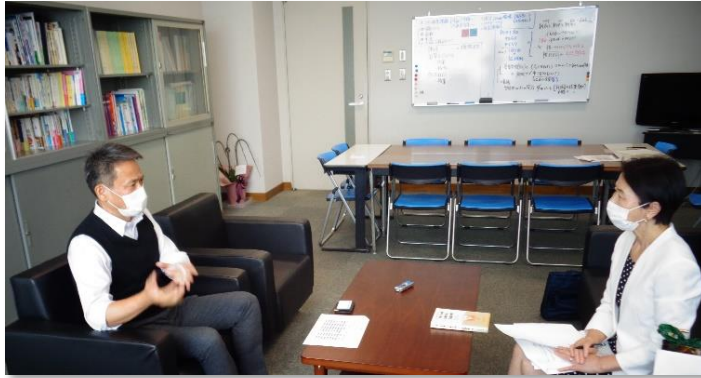
特別インタビュー

当事者意識を失った日本社会の問題点 ～「最上位目標の設定」が課題解決の鍵～

工藤勇一先生

学校法人堀井学園 理事、横浜創英中学校・高等学校 校長

聞き手／小山洋子(認定特定非営利活動法人おやじ日本 事務局長)



「クラス担任制の廃止」、「中間・期末テストの廃止」「宿題の廃止」など公立中学校の常識を覆す大胆な取り組みで改革の成果をあげてこられた工藤勇一先生。この春から私立の横浜創英中学校・高等学校校長として、新しい挑戦を始めています。

工藤先生の視線の先には何があるのか。日本中がコロナ禍に揺れる夏の朝、子どもたちの教育とこれからの社会について率直な思いを伺いました。

日本の子どもたちの現状

小山 今日はよろしくお願ひいたします。

早速ですが、ここに日本財団が昨年行った「18歳意識調査」のレポート(p4～p5)があります。これを見ると、日本の青少年(17歳～19歳)は「自分を大人だと思う」が29.1%、「自分は責任がある社会の一員だと思う」が44.8%、「自分で国や社会を変えられると思う」は18.3%と、アメリカ、ドイツ、中国など諸外国と比べて著しく低い結果となっています。

また、10年ほど前になりますが、2009年の財団法人日本青少年研究所による中学生・高校生の生活と意識調査結果でも、アメリカ、中国、韓国の青少年に比べ自己肯定感が低い結果が出ていました。こうした諸外国の青少年との意識の違いをどのように受け止めていらっしゃるでしょうか。

工藤 「諦め」というか、そういう感覚が染み付いているんですね。その原因の多くは、日本の子どもたちが受けてきた、いわゆる“管理教育”にあると思います。小・中高の中でも、とりわけ中学校の管理教育の徹底ぶりはずごいものです。頭髪や服装にはじまり、「あれはダメ、これもダメ」とやっているうちに、子どもたちはだんだんと自分で考えることができなくなってしまうのです。

子どもというのは、本来は主体的な存在です。いろいろなことに能動的に取り組んでみて、醍醐味を味わったり、失敗を重ねることで、主体性をもった人間に成長していくはずですが、ところが、従来型の管理教育では残念ながら真逆の人間をつくってしまいます。子どもたち、教師の双方が、ルールを守ること、守らせることに意識が集中し、どうしてそのようなルールがあるのかを考えなくなっています。よく「服装の乱れは心の乱れ」などと規則の必要性を正当化する声がありますが、それは果たして本当でしょうか(笑)。

規則とは何かの目標を達成するための手段であるはずですが、服装の話は一例ですが、手段がいつの間にか目的化しているんですね。

先ほどのアンケート結果は、日本が危機的な状況にあることを示しています。新しい時代を担うはずの子どもたちは、やり方やルールを与えられることに慣れきってしまい、当事者意識が希薄で、自分自身が世の中を変えられるなどとは思っていないのです。自己肯定感が低い、自信がもてない子どもたちを量産してきたことが、低い数値に表れています。

これからの学校教育で養うべきは「自律」

小山 大人の問題でもありますね。問題を認識していてもどのように解決したらよいのか悩んでいらっしゃる先生方は多いのではないかと思います。実際に行動しなければ何も解決できないと思います。工藤先生は、前任の麴町中学では、服装頭髪指導の廃止にはじまり、宿題をやめ、クラス担任の廃止、中間・期末テストも廃止と、驚くような改革を実行されておられますが、そうした取り組みの根底にある考え方をお聞かせ下さいませか。

工藤 「学校は何のためにあるのか」という原点に立ち返ることが大事だと思います。私は、学校とは「子どもたちが社会でより良く生きていけるようにする場所」だと考えています。そのためには、「自分で考え、納得して決定を下し、自ら行動する力」を身につける必要があります。「自律する力」を養うことと云ってもいいでしょう。



私自身は、高度経済成長期に小学校時代を過ごしましたが、そうした右肩上がりの時代には、“右にならえ”的な指導に重きを置いた管理教育でも、現在ほど弊害は少なかったかもしれません。成功している人の真似をすれば、何とかやっていた時代だったからです。しかし、これからはそれでは決してうまくいきません。先を見通せない時代には、模倣すべき対象が簡単に見つからないのです。

先導者がいない今、これからの学校教育は、子どもの自律に注力していくことが、ますます重要になると思います。そもそも教師というものは、人材育成のプロであるべきなのです。

まず最上位目標を。実行手段はその次

小山 先ほど、手段であるはずの校則などが目的化しているとお話がありましたが、個々のクラスや学校全体など、集団のまとまりを維持しつつ何かを決めていくプロセスについて、お話しいただけますか。

工藤 私は、「最上位目標」という言葉をよく使いますが、民主的に物事を決める際には、この最上位目標が最も重要です。ポイントは、関係する誰もが幸せになれる、皆が賛同できる目標として設定するところにあります。そしてその次に、「じゃあこの目標を達成するために、何をやるのか」と手段を考えていきます。

手段を決める際には、大勢の中には不利益を被る人も必ず出てきますが、最初に決めた最上位目標が皆に支持されてさえいれば、多くの人々が納得できる手段を比較的スムーズに採用、決定していただけます。このやり方は、教室や学校に限らず、会社や地域社会など、さまざまな集団でも有効だと思います。

ところで横浜創英中学・高等学校の建学の精神は「『考えて行動のできる人』の育成」となっていますが、このフレーズは私自身気に入っていて、素晴らしい最上位目標だと思います。この目標実現に向けて、どういう手段を実行していくべきか、目下試行錯誤しているところです。

新型コロナウイルスへの対応

小山 今般の新型コロナウイルスの対応はいかがでしょう。

工藤 この学校に赴任したのは4月からですが、その時は緊急事態宣言が発出されるかどうかと騒がれている時でした。春休みの延長で休校状態にありましたが、これは学校にとっては死活問題だと思いました。いつまでこの状態が続くか先行きが見えない中、採るべき対策はオンライン授業しかないとすぐさま決定しましたが、痛感したことは、この学校に限らずですが、オンライン化というか、学校現場のIT化が遅れていたことですね。でもそんなことを嘆いてもはじまらないので、教職員が一丸となって取り組みました。生徒や保護者はもちろんですが、教職員皆にも納得してもらいやり方に努めつつ、当時できることは全てやったと思います。

先ほどの物事を決めるプロセスで言うと、最上位目標は教室で行っていたことのオンライン化で、そのための手段として、全ての教員が端末を持つことにはじまり、同時に自分たちがすぐにできることのリストアップ、そして実行へと進めていきました。こうした対応の仕方は危機管理にも有効だと感じましたね。

AIとのつき合い方

小山 最後になりますが、AIについてはいかがでしょう。

工藤 AIについては、科学技術の進歩は止まることのないので、その弊害を憂うのではなく、新しい技術やサービスをどう活用していくかが重要だと思います。AIではありませんが、例えばSNSでの誹謗中傷など子どものスマホを心配する声もありますが、禁止する方向で考えるのではなく、例えば何らか管理された状態を学校内に作り、大怪我にならない程度に失敗も経験できるような仕組みができないものかと思います。

AIなどデータサイエンスが社会を変えていくと言われていますが、そうした時代にもたくましく生きていける子どもたちを輩出できるよう、非力ながら頑張ります。

小山 「どこかの誰かが何とかしてくれる。」、「どうせ言っても、やっても無駄。」、「こうなったのは大人、社会のせい。」という子どもたちのつぶやきに私たち大人はどう応えていくのが問われています。新型コロナウイルスの影響、高度情報化社会の進展等、環境が激変していく中で子どもをどんな大人に育てたいのか、その為はどうしたらよいか、求めていくのは何か、様々な立場の人々と課題を共有し、対話を重ねながら解決していく、思い切って変えていく、そんな大人の姿を子どもたちは見ているのではないのでしょうか。来年1月のおやじ日本の全国大会でもっとお話をお伺いできればと思います。本日はどうもありがとうございました。

18歳意識調査「第20回 -社会や国に対する意識調査-」要約版(抜粋)

出典: 日本財団 2019年11月30日

調査概要「18歳意識調査」-社会や国に対する意識調査-

エリア インド・インドネシア・韓国・ベトナム・中国
イギリス・アメリカ・ドイツ・日本

調査対象 各国の17歳～19歳男女

回答数 各国1000名
※下記の割付にて回収

| | 17歳 | 18歳 | 19歳 | 計 |
|----|-----|-----|-----|------|
| 男性 | 166 | 167 | 167 | 500 |
| 女性 | 166 | 167 | 167 | 500 |
| 計 | 332 | 334 | 334 | 1000 |

調査除外 下記の関係者は調査から除外
印刷業・出版業/マスコミ・メディア関連/
情報提供サービス・調査業/広告業

実施期間 2019年9月27日(金)～10月10日(木)

調査手法 インターネット調査

※注記: 本編の図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

自身について

日本は、いずれの項目においても9カ国の中で他の国に差をつけて最下位となった。

Q1 あなた自身について、お答えください。(各国n=1000)
(※各設問「はい」回答者割合)

| | 自分を大人だと思う | 自分は責任がある社会の一員だと思う | 将来の夢を持っている | 自分で国や社会を変えられると思う | 自分の国に解決したい社会課題がある | 社会課題について、家族や友人など周りの人と積極的に議論している |
|-----------------|-----------|-------------------|------------|------------------|-------------------|---------------------------------|
| 日本 (n=1000) | 29.1% | 44.8% | 60.1% | 18.5% | 46.4% | 27.2% |
| インド (n=1000) | 84.1% | 92.0% | 95.8% | 83.4% | 89.1% | 83.8% |
| インドネシア (n=1000) | 79.4% | 88.0% | 97.0% | 68.2% | 74.6% | 79.1% |
| 韓国 (n=1000) | 49.1% | 74.6% | 82.2% | 39.6% | 71.6% | 55.0% |
| ベトナム (n=1000) | 65.3% | 84.8% | 92.4% | 47.6% | 75.5% | 75.3% |
| 中国 (n=1000) | 89.9% | 96.5% | 96.0% | 65.6% | 73.4% | 87.7% |
| イギリス (n=1000) | 82.2% | 89.8% | 91.1% | 50.7% | 78.0% | 74.5% |
| アメリカ (n=1000) | 78.1% | 88.6% | 93.7% | 65.7% | 79.4% | 68.4% |
| ドイツ (n=1000) | 82.6% | 83.4% | 92.4% | 45.9% | 66.2% | 73.1% |

解決したい社会課題

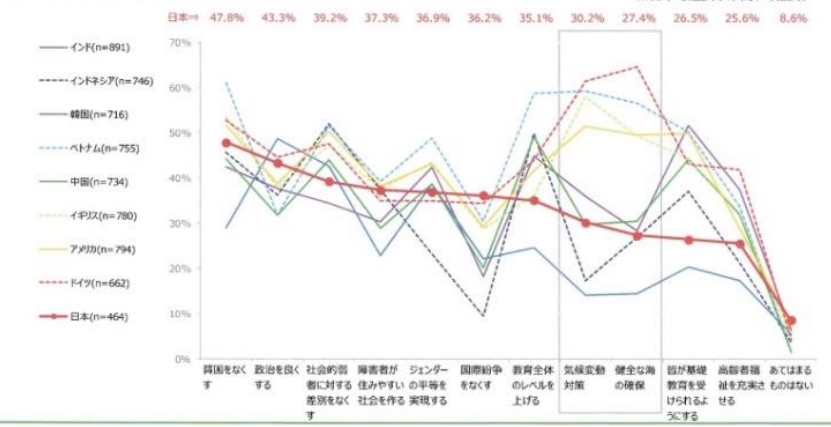
日本では、「貧困をなくす」「政治を良くする」「社会的弱者に対する差別をなくす」「障害者が住みやすい社会を作る」「ジェンダーの平等を実現する」が上位にあがる。

- 「気候変動対策」「健全な海の確保」の環境に関する問題については、問題意識の高さに差が見られ、「ドイツ」「ベトナム」「イギリス」「アメリカ」と、それ以外の国とで、2つに大きく分かれた。

■「自分の国に解決したい社会課題がある」回答者

Q2 あなたが解決したいと思っている社会課題は何ですか。(複数回答)

※日本で選択率が高い項目順



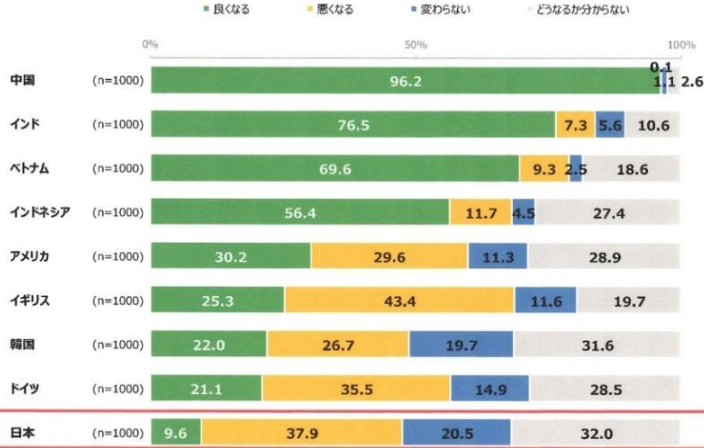
自分の国の将来について

自分の国について、「良くなる」と回答した人が過半数を占めたのは、「中国」「インド」「ベトナム」「インドネシア」。特に「中国」は96.2%と、ほとんどの人が「良くなる」と回答。

- 「日本」は「良くなる」が9.6%で9カ国中最下位。「悪くなる」のスコアは高く、イギリスに次いで2位。「変わらない」20.5%、「どうなるか分からない」32.0%がそれぞれ9カ国中最多で、国の将来に対する展望を持っていない人の割合が多い。

Q3 自分の国の将来についてどう思っていますか。(各国n=1000)

※「良くなる」スコアが高い順



自分の国が将来、どのような国になって欲しいか (各国ランキング)

「平和な国」は9カ国共通して上位にあがる。また、「国民の幸福度が高い国」もほとんどの国で上位にあがった。

Q4 あなたは自分の国が将来、どのような国になって欲しいと思いますか。(複数回答) (各国n=1000)

| 国 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|-----------------|---------------------|----------------------|----------------------|---------------------|----------------------|
| 日本 (n=1000) | 1位 平均幸福度が高い国 64.7% | 2位 国民の幸福度が高い国 59.7% | 3位 経済的に豊かな国 47.8% | 4位 差別のない国 45.4% | 5位 平等に機会が得られる国 37.6% |
| インド (n=1000) | 1位 平均幸福度 53.3% | 2位 平等に機会が得られる国 52.8% | 3位 誇り持てる国 50.1% | 4位 教育水準が高い国 48.2% | 5位 国民の幸福度が高い国 45.7% |
| インドネシア (n=1000) | 1位 平均幸福度 63.5% | 2位 国民の幸福度が高い国 55.3% | 3位 教育水準が高い国 50.7% | 4位 差別のない国 49.5% | 5位 国際的に協調できる国 45.4% |
| 韓国 (n=1000) | 1位 国民の幸福度が高い国 59.9% | 2位 平等に機会が得られる国 48.0% | 3位 差別のない国 43.8% | 4位 平均幸福度 37.3% | 5位 誇り持てる国 34.5% |
| ベトナム (n=1000) | 1位 平均幸福度 61.3% | 2位 国民の幸福度が高い国 61.2% | 3位 誇り持てる国 52.5% | 4位 経済的に豊かな国 48.7% | 5位 教育水準が高い国 48.2% |
| 中国 (n=1000) | 1位 国民の幸福度が高い国 60.3% | 2位 誇り持てる国 59.2% | 3位 平均幸福度 57.9% | 4位 経済的に豊かな国 56.5% | 5位 教育水準が高い国 54.4% |
| イギリス (n=1000) | 1位 平均幸福度 58.6% | 2位 平等に機会が得られる国 56.1% | 3位 誇り持てる国 53.0% | 4位 国民の幸福度が高い国 52.6% | 5位 差別のない国 52.3% |
| アメリカ (n=1000) | 1位 平均幸福度 62.1% | 2位 誇り持てる国 60.1% | 3位 平等に機会が得られる国 57.6% | 4位 国民の幸福度が高い国 55.6% | 5位 差別のない国 53.6% |
| ドイツ (n=1000) | 1位 平均幸福度 58.6% | 2位 差別のない国 54.5% | 3位 平等に機会が得られる国 50.6% | 4位 国際的に協調できる国 48.9% | 5位 誇り持てる国 48.0% |

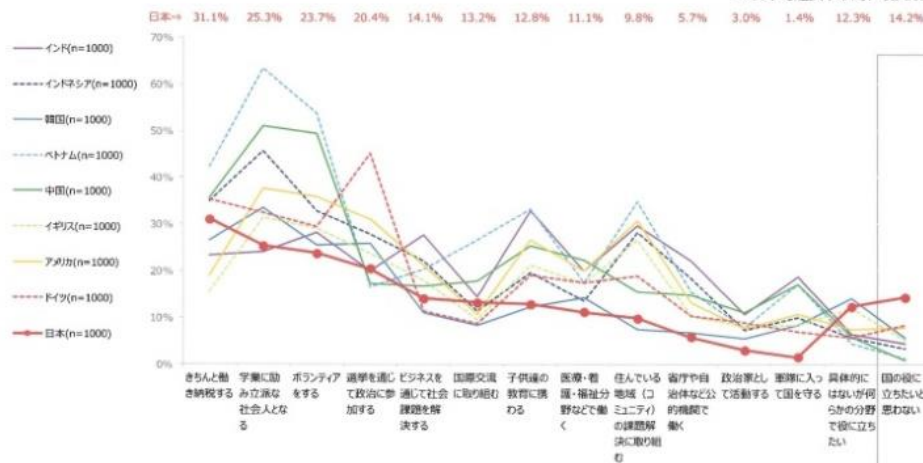
どのようにして国の役に立ちたいか

日本では、「きちんと働き納税する」「学業に励み立派な社会人となる」「ボランティアをする」「選挙を通じて政治に参加する」「ビジネスを通じて社会課題を解決する」が上位にあがる。

- また、日本は「国の役に立ちたいと思わない」が14.2%と9カ国中最多。

Q5 あなたは、どのようにして国の役に立ちたいと思いますか。(複数回答) (各国n=1000)

※日本で選択率が高い項目順



～広がれおやじネットワーク～

オール世田谷おやじの会の取り組み

～コロナ禍において子ども達に伝えたいこと～

オール世田谷おやじの会 会長 村内 敦

令和2年の新学期スタートは歴史に残るスタートとなりました。新型コロナウイルスが世界的に猛威をふるい、学校行事は大幅自粛の中、卒業式は中止、入学式も自粛・中止が相次ぐ状況でのスタートとなったのです。

その後も東京オリンピックは延期、夏の選抜高校野球は中止となり、何十年も続いてきた様々なイベントが中止・延期を余儀なくされ、各校で活動するPTA・おやじの会も新年度に合わせた新体制を始動できないまま、次々と活動の中止を決めざるを得ない事態に陥りました。

その様なコロナ禍の状況でも生活を維持するための体制の見直しが必要だという認識が広がるとともに、こんな時、「おやじの会として何ができるのか?」「想定していなかった事態にイベントを諦め自粛を続けていていいのか?」と自問自答とする状況が続きました。

そこでオール世田谷おやじの会では、こんな時だからこそ同志を持つ仲間たちの英知を結集して、自分たちに何ができるか模索していこうと、6月13日にオンライン会議による情報交換会を開催することにしました。

13校のおやじの会が参加し、普段から子ども達のために積極的に関わろうとする熱いおやじ達のバイタリティー溢れる姿がそこにはありました。

その会議では、「この状況下でもできることはないのか?」を模索するおやじ達の意欲で溢れており、自宅でも手軽にできる「工作動画」、学校にまだ一度も行けていない新一年生のための「ネットでの校歌演奏」、おやじの会主催の「学校の先生も参加のオンライン朝会」、新入会者のための「オンライン説明会」等々様々な活動報告しました。その会議の様子はYouTubeで公開しているので、「オール世田谷」と検索してご覧いただけます。

また、オール世田谷おやじの会では毎年世田谷区民会館ホールでおやじと子どものフェスタというイベントを開催しています。例年は来場者3,000人とされるこのイベントですが、今年は大幅に規模を縮小して、来場者はホールで演奏・演技をする関係者に限定した上、撮影した動画をネットで配信するという新たな発表形式の実現により、子どもたちを中心に楽器演奏、コーラス、ダンス、和太鼓等発表する形式で開催します。

感染リスク拡大を恐れイベントの中止が相次いでいることで、子ども達にとって貴重な思い出を作る機会がなくなっています。大人にとっては何十年の中の一年で、今年はどうかがないで済まされても、子ども達にとっては、まだ人生間もない貴重な一年なのだと思います。オール世田谷おやじの会では、このイベントを通してコロナ禍の中でも諦めずに、困難を乗り越えチャレンジする「今のおやじ達」の姿を子ども達に伝えたいと思っています。「未来のおやじ達」のために。



新型コロナウイルスの感染が続く中での学校の教育活動

おやじ日本正会員 鍋島 豊

(文化庁文化財第二課長)

新型コロナウイルスの感染がなかなか収まりませんが、その中でも、子供たちの学習保障が重要です。私は中学生と保育園児の父親ですが、2月末から、コロナ対応の要となってきた厚生労働省と文部科学省の連絡役をさせていただいており、子供たちの学びを保障していく取組や課題と、4月から中学生になった子どもを持つ親としての感想を記したいと思います。

本年2月末に、コロナの感染が全国的に広がったことから、政府は、全国的なイベントの延期・中止のほか、学校の一斉臨時休業を要請しました。

その後、さらに感染拡大となったため、4月に緊急事態宣言が発令され、5月末に宣言解除されるまで、全国的に休校が続くなど学校の教育活動は大きな影響を受けています。

子供や保護者と必死に向き合っている各学校が様々な工夫をされる中で、その取組を支えていくことが何よりも重要です。教育委員会や学校の設置者、文部科学省等も、感染予防の考え方や感染者が出た時の対応を分かりやすく示したり、休校下での家庭でも学習可能な学習支援のポータルサイトを立ち上げました。また、授業が徐々にできるようになってからは、臨時的に教員などを増員するなど、まだまだ十分ではありませんが、教育現場の声を伺いながら、いろいろな取組を行ってきています。

これまで例のない全国的な休校で、子供たちはもちろんですが、保護者の方々も不安が大きかったと思います。感染したら重症化するのでは？、人にうつしてしまわないか？というコロナウイルスそのものの疑問から、突然の休校で子供たちの学習はどうしたらよいのか、先が見えない中で生活リズムが心配、来年の高校入試や大学入試はどうなるのかなどという学習面、生活面のものも、多数、学校や教育委員会などに寄せられてきました。

徐々に授業が再開されてきた6月頃から、学校でもマスク着用、校内のこまめな消毒や教室での一定の間隔確保のためクラス人数を20人程度にして、午前、午後に分かれた授業の工夫を行うなど、感染予防に十分に注意した教育活動に取り組んできています。

子供たちは、休校だった分も取り戻せるように、真夏にもかかわらず、通常約40日の夏休みを16日など、相当短縮して頑張っています。冷房設備の設置も進められていますが、体育館などはあまり設置できておらず、授業や様々な活動の工夫が必要です。

学習面でのサポートの学習支援ポータルサイトでは、子供たちが家庭学習をする上でのヒントとなる各教科の教材を示しています。またGIGA(ギガ)スクール構想として、1人1台のパソコン(タブレットなど)を自宅にも持ち帰れるように整備を進め、昨年度からの5年計画の相当な前倒しを自治体の方との連携で進めています。

私の子どもは4月に中学生になり、入学式は校庭で実施されたと聞いています。当初は、中学生になったばかりで登校できない状況が続き不安だったようです。時々宿題を取りに登校したりして、先生やクラスの子どもたちと接する機会があり不安が徐々に薄れていったのではないかと思います。やがて授業が再開され、午前、午後クラス分けした授業なども始まり、だんだんと状況になれてきているようでした。自分の子どもの様子からですが、年齢や環境によっても違うかもしれませんが、子どもにとっては先生や友達とじかに接しながら学んでいくことも大切なことだと思います。

さて、現在の感染状況をみますと、コロナの収束にはまだ時間がかかるように思いますので、感染予防の対策や、仮に検査で陽性者が出たとしても、いかに広げないか、重症化しないようにするかが重要だと思います。将来を担っていく一番大事な子供たちのために、これからも、より多くの方々に力を合わせていければと思っています。今は感染予防を図るため、これまでのように学校の教育活動に多くの方に関わっていただく地域と学校が協働した取組はなかなかしにくい状況ですが、感染予防の取組のノウハウが積み重なっていけば、必ず、またそのような取組への期待は大きいと思います。

おやじ日本の未来教室や is 運動、防災教室はとても重要なものなので、徐々に再開していけるよう、少しずつ取り組んでいただけましたら大変幸いです。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

<参考:文科省コロナ特設 HP:https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/index.html>



◇◇◆ 活動報告 ◆◇◇

令和元年度

☆第4回定例理事会 3月14日(土)

審議事項

令和2年度事業計画について

令和2年度予算について

報告事項

令和2年度事業助成申請結果について

令和2年互礼会決算について

令和元年度中間決算メモについて

未来教室 防災教室 iS 運動 83運動

事務所使用許可 他団体連携事業

第19回全国大会

☆運営委員会

2月度運営委員会 2月8日(土)

第19回全国大会 互礼会決算

令和2年度事業計画 ニュースレターNo28発行

未来教室 防災教室 iS 運動 83運動

3月度運営委員会 3月14日(土)

第4回定例理事会報告 第19回全国大会

☆第19回全国大会実行委員会及び勉強会

第3回実行委員会及び勉強会 2月1日(土)

第4回実行委員会 3月14日(土)

☆互礼会

令和2年1月7日(火) 於 おやじ日本事務所

勉強会→

令和2年度

☆総会 6月9日(火) 於 おやじ日本事務所

☆第1回定例理事会 5月16日(土)

審議事項

平成31年・令和元年度事業報告について

平成31年・令和元年度決算報告について

総会議案について 他

報告事項

令和2年度正会員名簿について

事務局職員について

第19回全国大会延期について 他

☆運営委員会

5月度運営委員会 5月16日(土)

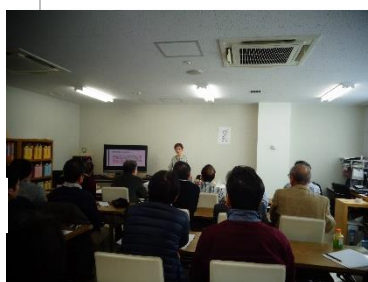
第1回定例理事会報告

令和2年度総会

第19回全国大会 未来教室

83運動 防災教室 IS 運動 他

第4回定例理事会 ↓



☆今後の予定

第2回定例理事会 9月19日(土) 午前10時30分～

おやじ日本事務所

9月度運営委員会及び大会実行委員会 9月19日(土) 午前11時～

おやじ日本事務所

10月度運営委員会及び大会実行委員会 調整中

第19回全国大会 令和3年1月16日(土) 開場 午後12時45分 開会 午後1時30分～午後4時

於 渋谷区商工会館 2階 大研修室 渋谷 1-12-5 JR、メトロ副都心線、半蔵門線渋谷駅 B3出口 徒歩3分

賛助・寄附のお願い

おやじ日本は活動の趣旨に賛同して下さる方々に賛助・寄附を募っております。皆さまからのご理解とご支援を頂きたく、お願い申し上げます。おやじ日本は、国税庁から認定NPO法人(国税庁課法11-86)として認定されていますので、おやじ日本に対して寄附または贈与された方につきましては、所得税、法人税または相続税上の課税について、寄付金控除等の特例が適応されます。賛助のご協力を頂ける方は下記振込先にご入金をお願い申し上げます。

みずほ銀行新橋中央支店 普通2059554

口座名 おやじ日本

ゆうちょ銀行

00150-9-631618

口座名 おやじ日本

必要とされる方には領収証を発行させていただきます。ご理解、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

事務局からのお知らせ

★83運動、アイエス運動などを各地域で実施されている方は、ぜひご連絡下さい。ニュース・レター等で紹介させていただきます。

☆おやじ日本では、引き続き、正会員・登録会員・賛助会員を募集中です。申込みは事務局までお願いします。

【発行】 認定特定非営利活動法人 おやじ日本

住所 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-18-21 渋谷区役所第二美竹分庁舎3階

電話&ファクス 03-3499-1877

ホームページ: <http://oyaji-nippon.org/> E-mail: desk@oyaji-nippon.org

担当理事及び事務局 小山洋子 丸山容子 大喜滋子 小菅操

編集協力 片山潮 蓑谷則美 ここに記載の内容は全て無断転載を禁じます

